

神戸新聞読者クラブ

奥さま手帳

毎月、兵庫を再発見。

2023年
12月号
NO.605



ようこそ、おまいり。
神社へ、お寺へ。

スープを食べよう。



上は「芭蕉の間」をイメージした店内。靴を脱いでくつろぐ掘りごたつ席の他、テーブル席もある。特産品や農作物が並ぶ店頭の売店も見逃せない。

必ず食べたい門前の名物麺。

芭蕉庵 ばしょうあん | 香美町

門前のうどん処は、なんと壁一面に応挙の絵。香住で人気ラーメン店を営み、一念発起して手打ちうどんの世界へ転身した上田隆良さんが、風味豊かなごまだれの付けうどんに打ち込んで10年になる。「麺がゆで上がるまで15分かかるので」と、まずは旬菜小鉢6品が登場。細身でつやつやのうどんは温冷2種の付けタレにたっぷり絡めて。拝観の余韻にも浸ってゆるりと過ごしたい。

▷美方郡香美町香住区森863-3 大乘寺門前 ☎0796-39-1144
午前10時～午後2時 火曜休(12/29～1/3休) ©4台



ごまだれ冷付けうどんセット1,320円(大盛無料)。前菜のおかずはゴボウの天ぷら、玉ネギとクリームチーズのサラダ、ニンジンゴマあえなど。ごまだれうどんは、上田さんがラーメン店時代から活用するユズの香りと酸味がアクセント。うどんは半量を温うどんに変更でき、写真はごまだれうどん、かきたまカレーうどんの半々。11～3月の温うどんは奥さまの由美子さんの故郷、茨城県の名物「けんちゃんうどん」になる。



道案内 / 電車→JR山陰本線香住駅からタクシー約5分、または南へ徒歩約25分 車→北近畿豊岡自動車道但馬空港ICから北西へ約35分



大乘寺

何度でも詣でたい
眼福の寺へ。

まばゆいばかりの金地にモノクロームで描かれた「孔雀の間」(上)、対照的に鮮やかな絵具で描かれた「芭蕉の間」(左)はいずれも応挙の筆。子の応瑞(おうずい)、高弟の呉春(ごしゅん)の作など、一門の作品がこれほどそろっているのは日本でも唯一。



再製画。たとえば仏間につながる「孔雀の間」では、襖を開け閉めする機会が多いため、開けた時も閉めた時も、松の枝ぶりがきれいにつながるような構図に。また、中国唐(とう)の武将であり政治家、郭子儀(かくしぎ)と孫たちを描いた「芭蕉の間」では、見る方向に合わせて子どもが右へ左へ身をかわすように見える「八方にらみ」の技法に驚かされる。そうした物語のある絵が、十一面観音菩薩を祀る仏間を中心とした東西南北の座敷に配置され、客殿全体で密教の教えを表現するのが応挙のねらい。壮大なメッセージはいつ見ても新しい発見がある。

冬のカニにも心ひかれる香住を訪ねたら、必ず拝観したいのが「大乘寺」。江戸時代中期、当代一の人気絵師だった円山応挙(まるやまおうきよ)と弟子たちが描いた客殿の襖(ふすま)絵は、何度見ても不思議な魅力に満ちている。丹波国出身の応挙は、まだ無名だった頃に大乘寺の密蔵(みつぞう)上人から学資援助を受けた恩に報いるため、12人の門弟とともに165点の障壁画を手がけた。そのすべてが国の重要文化財であるため現在は収蔵庫に保管され、客殿に飾られているのは、最新技術で完成時の姿を色合いや技法まで再現された

ようこそ、おまいり。 神社へ、お寺へ。

この年末年始、改めておまいりに訪れてみたい兵庫の名刹・大社。新年恒例の「初もうで」の前、ひと足早い「年末もうで」もおすすめ。新年に向けて清められていく参拝者がまだ少ない境内で、神社やお寺の静謐な空気を感じながら建物や美術を間近に眺めたり、御朱印やお守りを授かったり。1年の感謝をこめておまいりすると清々しい。

撮影/岡本佳樹 坂上正治 南平泰秀 本郷淳三
取材・文/伊藤順子 野上知子 井鍋 横 牧野しのぶ

価格は個別に注釈がない限り、税込み表記です。
年末年始は休みや営業時間の変更を確認の上、お出かけください。



冬でも緑豊かな樹齢1200年の大楠に守られた山門をくぐれば、入り口で応挙さんの銅像が迎えてくれる。靴を脱いで客殿へ。立って、座敷に座って鑑賞し、細やかな手法に魅了されて。

亀居山 大乘寺 かめいさん だいじょうじ | 香美町

745(天平17)年に行基菩薩によって開かれた高野山真言宗の古刹。「応挙寺」の名でも親しまれている。客殿をガイドさんの案内で巡れ、絵の見どころや意味を解説してもらえる。客殿の全貌がわかりやすいホームページのデジタルミュージアムもぜひチェックして。

▷美方郡香美町香住区森860 ☎0796-36-0602
<http://www.daijyoji.or.jp/>
午前9時～午後4時(受付は午後3時40分まで。12/30は午後3時まで。12/31は正午まで。1/1休館。1/2・3は午後3時まで) 内拝料 / 中学生以上1,200円、小学生600円 ©15台



朝光寺

CHOKO-JI



深い森に守られた
国宝の本堂。

朝光寺 ちょうこうじ | 加東市

飛鳥時代、インドより渡来した法道(ほうどう)仙人の創建と伝わる寺。生い茂る木々に守られるように立つ本堂は、瓦を葺いた唐様らしい反りのある大屋根が印象的。内部は本尊の千手観音像2体を安置する内陣と外陣を格子戸の菱格子欄間で区切った大空間。土・日曜の午前10時～午後3時30分はボランティアガイドが常駐する(12～3月休)。

▶加東市畑609 ☎0795-44-0735(総持院) 午前8時～午後5時(冬季は午後4時まで) 参拝無料 ①100台 道案内/電車→JR加古川線社町駅からタクシー約30分 車→中国自動車道ひょうご東条ICから北西へ約20分



創建当時の格子が優しい光を通す外陣で靴を脱いでお参り。境内や本堂に加えて近くの滝壺[つくばねの滝]も映画に登場。本堂では声楽コンサートが開かれたこともある。「お寺を訪れるきっかけに」と法蓮さん。



兵庫県に6つある国宝のうち5つを有する歴史豊かな播磨。その1つである「朝光寺」の本堂は、600年以上前の建立から時を止めたように静かな森にたたずんでいる。この清閑の地が映画の舞台となり、400人以上のスタッフやエキストラによる撮影が行われたのが一昨年のこと。織田信長と妻の濃姫を描いた大作『レジェンド&バタフライ』の

だが、朝光寺は意外にも初めて。「境内に電線や建物など現代の人工物が無く、自然にここまで溶け込んだ寺院は全国でも珍しい」と監督が感心されていました。映画を観た方がたくさん参拝され、本堂に手を合わせた後、境内の口ケ地や近くのつくばねの滝を聖地巡礼されています」と塔頭「総持院」の僧侶、大槻法蓮(ほうれん)さん。本堂は天井が高く柱が太く、和唐折衷様式の特徴をよく表したスケールの大きな建物。鳥の声や川のせせらぎに包まれて心穏やかに参拝しよう。

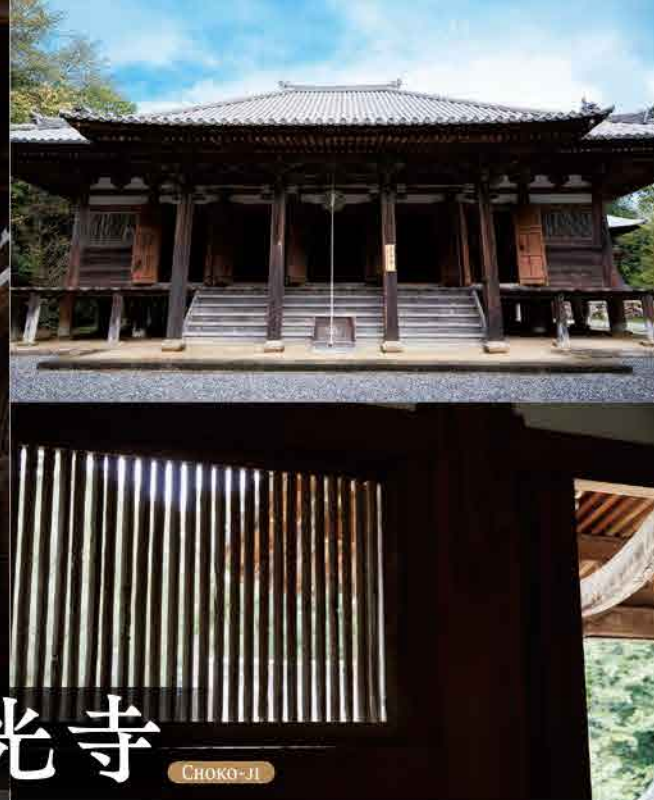


現代アートのような十二神将。

播州清水寺 ばんしゅうきよみずでら

日本遺産の西国三十三所、第二十五番札所の古刹。見どころは平清盛の義母・池禅尼(いけのぜんに)の創建と伝わる薬師堂。本尊の薬師如来を守る十二神将を、奈良県のマスコット・せんとかんを生んだ彫刻家の簀内佐斗司(やぶうちさとし)さんが干支の動物で表現した木彫作品が必見。

▶加東市平木1194 ☎0795-45-0025 午前8時～午後5時(入場は午後4時30分まで) 入山・拝観料一般500円、高校生300円 ③300台 [朝光寺]から北東へ車で約22分



九星詣りセット800円。災いや汚れを払い祈願成就を祈る(九星御幣)は神棚や家の中心に置く。(九星御守)は財布やカバンに、(九星祈願札)は願いごとを書いて運命星の穴に。



HIROMINE-JINJA

廣峯神社

神々がおわす山で
星に願いを。

ふもとから標高260mほど上がるだけで空が近く、昔から神の山と崇められる白幣山や広峰山に抱かれて清々しい気分。奈良時代、遣唐使の吉備真備(きびのまきび)が唐から帰る途中に立ち寄って御神託を受け、聖武天皇の命で社殿を築き、平安時代に現在地に大社殿を造営した。陰陽道を極めた吉備真備は、それを広めようと素戔鳴尊(すさののみこと)と奇稲田媛命(くしなだひめのみこと)

の夫婦神、子神を祀り、陰陽道の神々に置き換えて日本の暦の神としたことで、かつては陰陽師の聖地としてにぎわった。現在はパワースポットとして人気のほか陰陽道の形式を伝える九星詣りが唯一体験できる神社として密かなブームに。また大河ドラマで注目された黒田官兵衛ゆかりの地として「官兵衛神社」の建立も話題に。多くの文化財や歴史が息づく神社で心新たに一年の始まりを迎えたい。



九星詣りは、まずは拝殿へ、二礼二拍手一礼の作法で日頃の感謝を伝えてから本殿裏側へ。一白水星から九紫火星まで自分の運命星の穴が並び、それぞれに守護神が鎮まっている。穴に一礼し、願いごとと名前を書いた祈願札を投げ入れ、穴に顔を近づけて願いを3回ささやき、最後に一礼。



官兵衛神社は土・日・祝は参拝自由。それ以外の日は社務所へ申し込みを。「クリスチャンの官兵衛にちなんで十字架などを奉納しています」と巫女の池田梨花さん。随神門からは街や播磨灘を一望。神社に伝わる景勝画を写した姫革細工の御朱印帳カバー24,000円。



こちらも信仰の山。広がる大伽藍。

書寫山圓教寺 しょうしゃさんえんぎょうじ

白幣山、広峰山の西、素戔鳴尊が山頂に降り立って1泊したという伝説の書写山もまた、古くから信仰を集める山。標高371mの山上一帯が寺域で、この字となって寄り添う国重要文化財の大講堂、食堂(じきどう)、常行堂、岩山の中腹に立つ舞台造りの摩尼殿(まにでん)など千年以上の歴史ある伽藍が手つかずの森の中に息づく。厳かな空気を感じつつ、ゆっくり散策を。

▶姫路市書写2968 ☎079-266-3327 午前9時～午後5時(季節で異なる) 志納金一般500円、小学生300円(山上マイクログリス利用は別途500円) 廣峯神社から車で西へ約20分で書写山ロープウェイ山麓駅駐車場。ロープウェイに乗り換え山上へ(往復利用料1,000円)。山上から摩尼殿まで徒歩約20分



立ち寄り

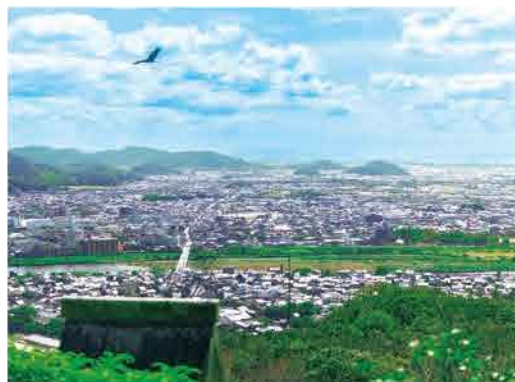
山上へはロープウェイで。志納所から伽藍群までバス送迎もある。大講堂裏から山道を10分で素戔鳴尊を祀る[白山権現]にもお参りできる。



廣峯神社 ひろみねじんじや | 姫路市

2千年以上前、白幣山の頂に神籬(ひもろぎ)を立てて素戔鳴尊と五十猛尊(いたけるのみこと)を祀ったのが最初。主祭神・素戔鳴尊とその化身・牛頭天王(ごずてんのう)、薬師如来を祀り、縁結びの神、五穀豊穡の神、厄災・病気を祓う最強の疫神、商売繁盛の神として多くの人から崇敬された。本殿は室町中期、拝殿は江戸時代に再建。国内最大級で国の重要文化財。

▶姫路市広嶺山52 ☎079-288-4777 参拝自由 ⑤50台 道案内/電車→JR神戸線・山陽姫路駅から神姫バス。広峰下車徒歩約40分 車→播磨連絡道路砥堀ランプから西へ約10分



石段の途中には「力水」。最後の階段が急なので上りも下りも気をつけて。大きな石扉には出雲大社の宮司、千家氏の家紋。さらに上へ登ればお墓の上からも抜群の眺望を楽しめる。



1300年前の日本書紀に描かれた物語。垂仁(すいにん)天皇の御代、剛力無双で知られる出雲国の野見宿禰と大和国の当麻蹶速(たいまのけはや)が、天皇の前で力比べを行なった。これが歴史上初めてと言われる天覧相撲。

野見宿禰神社 みのすけのじんじや | たつの市

貴人が亡くなると古墳がつくられた時代。殉死の風習に代わって埴輪を考案した土師(はじ)氏の祖としても慕われる野見宿禰。「気は優しくて力持ち」な人柄がしのばれる。墓の周りには明治から大正期に活躍した84名の力士や行事が寄進した玉垣が見られ、現在も有力力士の参拝が後を絶たない。

▶たつの市龍野町北龍野 参拝自由 ◎観光駐車場を利用 道案内/電車→JR姫新線本龍野駅からタクシー約5分、龍野公園下車、徒歩約10分 車→山陽自動車道龍野ICから北へ約5分で龍野公園へ



立ち寄り



龍野神社

たつのじんじや

野見宿禰神社への登り口がある龍野神社。聚遠亭一帯はかつての龍野藩の藩邸敷地内。賤ヶ岳の七本槍で有名な藩祖、脇坂安治公が御祭神。

聚遠亭

しゅうえんてい

龍野神社に隣接する脇坂家上屋敷跡の美しい庭園。浮堂の茶室が趣深くフォトジェニック。土・日曜、祝日は茶席が開催される楽しみも。



龍野城 たつのじょう

白壁に映える隅櫓や埋門、本丸御殿が昭和50年代に整備された城跡と城下町も散策。背後の鶏籠山(けいろうざん)山上には古城の遺構も残る。



野見宿禰神社

NOMINOSUKUNE-JINJA



蓮花寺 れんげじ 洲本市

鎌倉末期の1332(元弘2)年、禅定律師が後宇多天皇の菩提を弔うために全国を行脚する中で建立し、天皇ゆかりの京都の蓮花峰寺にちなんで「蓮花寺」と名付けたと伝わる。[羅漢堂]は拝観自由。その中には厄除けや病氣平癒のご利益で知られる寶頭盧尊者(びんずるそんじや)、通称「なでばとけ」様もいる。

▶洲本市安乎町宮野原460 ☎0799-28-0133 午前7時~午後6時 参拝無料 ◎50台 道案内/電車→JR神戸線舞子駅から高速バス、本四安乎下車 徒歩約20分 車→神戸淡路鳴門自動車道津名一宮ICから南へ約15分

RENGE-JI

蓮花寺

極彩色の羅漢に 目も心も奪われて。



淡路四国八十八ヶ所霊場第七十四番。一面の羅漢像は壮観のひとこと! 色彩も表情も豊かで圧倒される。釈迦の一番弟子と名高い「びんずるさん」は赤い体特徴。



振り返ると、あの形!

安乎岩戸信龍神社

あいがいわどしんりゅうじんじや

海辺を走る国道28号線沿いに立つ小さな鳥居。その奥には洞窟があり、長らく廃跡となっていた岩戸神社を再興した、神様に仕えた龍を祀るといわれるお社が鎮座する。お詣りを終えて入り口を振り返れば、岩場のシルエットがまるで淡路島の形でビックリ。鳥居越しにきらめく海の神秘的な美しさにもしみじみ感動。

▶洲本市安乎町平安浦25 参拝自由 ◎あり [蓮花寺]から南東へ車で約5分

立ち寄り



安乎八幡神社へと遷座した神様を待ちながら、今も祠を守ると伝わる龍。誠実と信頼の象徴として2021年に神社を再興。フォトスポットとしても人気。

五百羅漢(ごひゃくらかん)とは、お釈迦さまの悟りを開いた500人の直弟子のこと。その一体一体の表情やしぐさはさまざまで、中には親子、愛しい人の面影がきつと見つかると言われる。「あわじ花へんろ」の札所であり、サクラやツバキ、ツツジの名所でも知られる「蓮花寺」の羅漢様は、「花の寺」にふさわしい色鮮やかさ。中央の釈迦如来像を囲んで、お堂の壁一面に約530体がずらりと並ぶ。

ぶ。江戸時代後期の1784(天明4)年にまず十六羅漢がつくられ、さらに66年かけて全員が安置されたといひ、お一人お一人の顔を拝見すれば、穏やかな顔に笑った顔、困り顔、楽しそうに話す顔、筆を持ったり経を読んだり、楽器を奏でる真剣な顔も。心ひかれる表情を探して、時間を忘れて見つめてみたい。





満願寺 | 川西市

標高200mの地に広がる境内にたたずむと吹き渡る緑の風に心が洗われる。奈良時代、聖武天皇の命により千手観音(秘仏)を本尊に創建。源氏一門の祈願所として崇拝され、源頼光に仕えた坂田金時(幼名・金太郎)の墓も。洋風を取り入れた建築様式が珍しい山門をくぐると参道が続き、秋は紅葉が見事。

▷川西市満願寺町7-1 ☎072-759-2452 室内拝観は午前9時〜午後4時30分 入山料/100円 室内拝観料/300円 ⑤50台



坂田金時の墓(上)と阿弥陀如来を祀る金堂。山門の金剛力士像は明治期に元多田院南門から移転した。

門前で、境内で。
おいしいご利益。

ゆったりと穏やかな時間が流れる、静謐な境内のお店でいただく体にやさしいごはんや甘味。神社門前の参道の老舗で、昔から愛されてきた名物はお土産に。心もおなかも幸せ!



満願寺

奈良時代の古刹で、
2つの楽しみ。

ヘルシーごはんと甘味で一息。

喫茶坊 縁 えん | 川西市

「山の上にある静かなお寺。参拝客にゆっくり休んでもらえる場を、と5年前に始めました」と名誉住職の若田等慧(わかたとうえ)さん。看板メニューは「お寺ごはん」(数量限定)。車麩を和洋中に調理したメインのおかず旬野菜を使う小鉢など内容は週替わりで、「ヘルシーで食べ応えがある!」と評判に。川西や宝塚などの新鮮野菜を豊富に使うのも魅力。手づくりのわらび餅やケーキをコーヒーと一緒に楽しむのもおすすめ。

▷満願寺 本坊向かい ☎080-9253-6387
午前10時〜午後3時(ランチは午前11時〜午後2時30分ラストオーダー) 火・水曜休(12/26〜1/3休)



源氏まつわる
神社へお詣り



多田神社 ただじんじゃ | 川西市

清和源氏繁栄の基である源満仲公が、住吉大明神の御神託を得て多田院を建立したのが始まり。満仲、源頼光、源頼信、源頼義、源義家の五公を祀る。宝物殿には頼光が金太郎伝説のモデルとなった坂田金時を連れて酒呑童子討伐の際に使ったとされる宝刀「鬼切丸」を所蔵。勝運厄除の守護神。鬼切勝守1,500円。

▷川西市多田院多田所町1-1 ☎072-793-0001 午前6時〜午後5時 参拝無料 ②20台(有料) 満願寺から車で北へ約10分

満願寺の道案内/電車→JR宝塚線川西池田駅から阪急バス、満願寺下車徒歩約3分 車→中国自動車道宝塚ICから北東へ約20分



ざるそば800円、大盛り1,100円。月ヶ瀬の梅そば1,000円、カキそば1,300円など季節限定品も好評。10月初旬の取材日は長野県の奈川在来種の新そば。まず塩、次に香りとコクが際立つ自慢のつゆで。



受け継がれる思いと名物そば。

満願寺蕎麦 まんがんじそば | 川西市

「寺号を冠したそば処を開きたい」という住職の願いにこたえて、そば職人の箱崎孝治さんが境内で開いたそば処。5年前から弟子の村井英彦さん(写真)が味と想いを受け継ぐ。「師匠が季節ごとに全国から選りすぐり、低速回転の石臼で丁寧にひいたそば粉を打つので風味も香りも最高。だしは天然真昆布、枯れ本節、かえしは佐用町の三年熟成しょう油で。本物にこだわります」と村井さん。土・日・祝の営業で打ち立ての二八そばを30〜40食。

▷満願寺 金時茶屋内 ☎なし 土・日曜、祝日の午前10時30分〜午後2時30分のみ営業(売り切れ次第終了) 12/25〜31休、1/1〜3は営業



お寺ごはん1,100円。車麩の回鍋肉風、ごま豆腐、けんちん汁など。2色わらびもち400円。店長の中尾さん(左から2番目)など女性スタッフが切り盛り。若田さん(右)も毎日のように通う。





本殿の奥へ進むと樹齢約800年の楠の御神木と楠宮稲荷社が。6世紀ごろから神の化身である赤いが宿るとして崇敬を集め、明治期には赤い絵馬を奉納すると痔や病気が平癒するとして評判に。今も参拝者が絶えない。絵馬500円、病氣平癒のミニ守り500円。



室町期から続く古式追儺式の節分祭は7匹の鬼が神々に代わり災いを祓い清め、立春を迎える。鬼の絵馬各500円、ストラップ1,200円。

長田神社 ながたじんじや | 長田区

約1,800年前の創建と伝わり、祭神は商工業や産業の守護神で「恵美主さま」「福の神」と讃えられる事代主命(ことしろぬしのみこと)。開運招福や厄除けの神としても有名だ。境内奥に鎮座する楠宮稲荷社は「特に痔に効く」と全国から広く信仰される。



▶神戸市長田区長田町3-1-1
☎078-691-0333
午前9時～午後4時 参拝無料 ④40台
(1/1～6は駐車不可)

道案内/電車→神戸高速線高速長田駅、または地下鉄西神・山手線長田駅から北西へ徒歩約8分 車→阪神高速神戸線柳原出口から西へ約7分

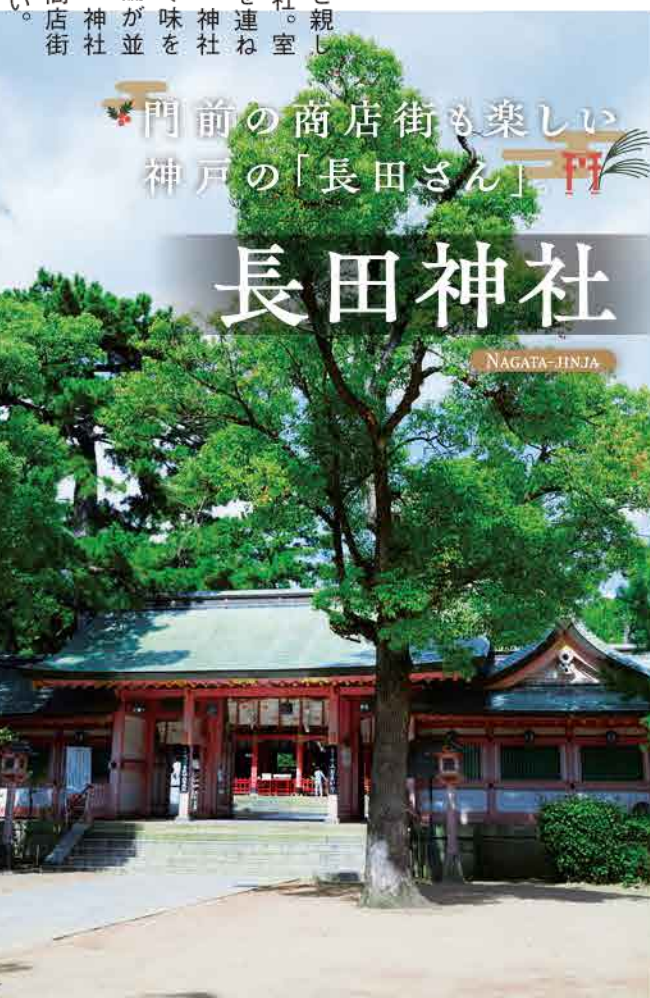
老舗の甘味をお土産に/

長田のういろや ながたのういろや | 長田区

1877(明治10)年創業時は長田神社前にあったが、1945(昭和20)年に現在の地に。看板商品は伝統の製法を受け継ぐ、米粉と葛(くず)を使ったもちもちの「ういろ」。長田神社の風景と和歌がしたためられた掛け紙は日本画家の菅橋彦さんが描いたオリジナル。定番の白ういろ、風味豊かな抹茶ういろ各1本500円。

▶神戸市長田区長田町1-3-1-115
☎078-691-0987
午前9時30分～午後6時30分(年末年始の営業時間未定) 火曜休 ④なし
[長田神社]から南東へ徒歩約2分

地元で「長田さん」と親しまれる由緒ある神社。室町時代から店が軒を連ねていた参道沿いには、神社とゆかりが深く代々味を守る和菓子の老舗が並ぶ。参拝の帰りに、神社と共に歴史を刻む商店街をゆっくり散策したい。



門前の商店街も楽しい
神戸の「長田さん」

長田神社

NAGATA-JINJA

餅屋大西 もちやおおにし | 長田区

アイスクャンデーの店として1937(昭和12)年に創業。食堂などを経て、1965(昭和40)年に和菓子店として再開して以来、アイスクャンデーは長田神社参道の定番おやつに。冬はみたらし団子やフライまんじゅうも人気。あんみつ350円。アイスクャンデーは4月中旬から10月中旬までの期間限定。

▶神戸市長田区長田町1-3-1-109
☎078-691-4629
午前10時～午後7時 無休(1/1～5休) ④なし
[長田神社]から南東へ徒歩約2分



「播磨国風土記」ゆかりの地で古くから地域を守ってきた「八王子神社」。温もりあるギャラリー＆カフェに続いて昨年自家製ジェラートの店がオープン。境内に誕生した新たな楽しみが、人と神社をつなぐきっかけに。

手焼きするモチモチ生地のどら焼き400円。雲潤珈琲600円、季節の薬膳茶(雲潤茶)650円。カフェは全8席。

温かい木製品と、ほっこり和のおやつ。

URUMI gallery cafe ウルミ ギャラリー カフェ | 加西市

鳥居の先には、無垢材でつくる器などの木製品やセレクト雑貨が並ぶギャラリーと、小さなカフェ。木工作家の山本周平さんが実家の神社を継ぐのを機に、「神社の存在を身近に感じてほしい」と店を構えた。カフェでは生産者の思いが詰まった食材でつくるメニューでもてなす。「人気は加西の酒米農家[ten]の丹波大納言小豆を使ったどら焼き。豊かな大地で育った小豆は大粒で、滋味深い味わいです」と奥さまの草子さん。心地いい参拝時間を。

▶八王子神社境内 ☎なし 午前11時～午後3時30分(ラストオーダー)※カフェ利用は1組2人まで 木・金・土曜休、日曜不定休(営業日は店舗Instagramで要確認。年末は12/28から休業、年始の再開日未定) ④あり



「店名は『播磨国風土記』にこの地が(雲潤(うるみ)の里)と記載されていたので」。家族で神社を盛り上げる。

HACHIOJI-JINJA

八王子神社

土地を守る神社で
自然の恵みを実感。



シングル500円、ダブル570円、トリプル650円。今冬はどら焼きにも使用する加西産小豆を使ったジェラートも登場予定。

季節の味をジェラートに。

狛犬GELATO こまいぬジェラート | 加西市

神社境内に昨年4月にオープンした手づくりのジェラートショップ。小野市にある[共進牧場]の牛乳を使った(狛犬ミルク)をはじめ、手間ひまかけて仕上げた優しい味わいが評判。「生産者さんの顔が見える食材を中心に厳選し、季節のフレーバーを常時9種類用意しています」と店主の片岡依志実(よしみ)さん。神社にあるお店らしく、狛犬のイラストが焼印された瓦煎餅のトッピングがアクセント。

▶八王子神社境内 ☎0790-45-2060 午前11時～午後4時 水・木・金曜休(12/30～1/3も営業) ④あり



「神社を訪れる人たちのにぎわいの場になれば」と笑顔の片岡さんは、山本さんの実妹。

八王子神社 はちおうじじんじや | 加西市

1037(長暦元)年に滋賀県の日吉大社より八王子大神を勧請して祀り、五穀豊穡、安産祈願の神様として崇敬される。緑に囲まれた参道や本殿も心地よく、地元の氏神様として親しまれてきた。山本さんのお母さまが手づくりする季節の判子を押した御朱印500円を楽しみに参拝する人も多いそう。

▶加西市田谷町1265 ☎0790-45-0751
参拝自由(社務所は午前9時～午後4時) 参拝無料 ④あり 道案内/電車→JR加古川線滝野駅からタクシー約10分 車→中国自動車道滝野社ICから西へ約10分



／由来に物語あり!かわいい絵馬／



絵馬掛けに松をかたどった絵馬を掛けると、緑豊かに茂っているように見える仕掛けがユニーク。絵馬800円。

高砂神社 たかさごじんしゃ | 高砂市



神功(じんぐう)皇后が外征からの帰国途中、国家鎮護のため大己貴命(おおなむちのみこと)を祀ったのが始まり。結婚式などおめでたい席に欠かせない謡曲『高砂』発祥の地で、境内には松が描かれた能舞台も。雌雄一本の珍しい松「相生松」は現在5代目。夫婦和合や長寿の象徴として創建時から信仰を集める。

▷高砂市高砂町東高町190 ☎079-442-0160
午前9時～午後6時 参拝無料 ①15台 道案内/
電車→山陽電車高砂駅から南へ徒歩約15分 車→
加古川バス高砂川ランプから南西へ約10分



千姫天満宮 せんひめてんまんぐう | 姫路市

1623(元和9)年に千姫が男山(おとこやま)中腹に天満大自在天神(菅原道真公)を祀って建立。千姫は西の丸から朝夕拝んだそう。絵馬は、魔除けの美しい羽子板6枚を奉納したことになぞらえた羽子板の形。戦国時代には珍しく恋愛結婚した千姫にあやかり恋愛成就の祈願が多い。

▷姫路市山野井町1-3 ☎079-291-1550
参拝自由 ②8台 道案内/電車→JR神戸線・山陽姫路駅から神姫バス、市之橋・文学館前下車徒歩約5分 車→姫路バス・姫路南ランプから北へ約8分



絵馬は八幡神の使いである鳩がモチーフ。鳩に思い思いの顔を描いて奉納しよう。鳩顔願掛け絵馬500円。



柏原八幡宮 かいばらはちまんぐう | 丹波市

後一条天皇の勅願で京都の石清水八幡宮の分霊を勧請して創建され、厄除けや災難除けの神として信仰されている。羽柴秀吉により1585(天正13)年に再々建された現在の本殿は、桃山時代の貴重な建築様式から重要文化財に指定。神社には珍しい三重塔も見ごたえがある。

▷丹波市柏原町柏原3625 ☎0795-72-0156
午前9時～午後4時 参拝無料 ⑤50台 道案内/
電車→JR福知山線柏原駅から北東へ徒歩約5分 車→舞鶴若狭自動車道丹波篠山ICから北西へ約30分



浄土堂の本尊は国宝・阿弥陀三尊立像。仏師・快慶作と伝えられ、阿弥陀如来像は高さ5.3m。脇侍の観音菩薩像と勢至(せいし)菩薩像は3.7mという迫力。夕方には堂内全体が西から差し込む夕日に照らされ、三尊像が幻想的に浮かび上がる。まるで極楽浄土のような光景。



浄土寺は鎌倉時代初期、東大寺播磨別所として重源上人が建立。国宝の浄土堂は大仏様という珍しい建築様式で、朱色の柱と白壁が美しい堂内も見どころ。来世を表す浄土堂と向かい合うように現世を表す薬師堂が立ち、その中央の道は三途の川を表現していると言われる。

道案内/電車→神戸電鉄小野駅から神姫バス、浄土寺下車すぐ 車→山陽自動車道三木小野から北へ約20分



**縁起物に
願いをこめて**

ひとつずつ息を吹き込んでいく温かな表情の人形が背負うおみくじ、季節が繊細に描かれた御朱印。日頃の感謝を込めておまいりしてからいただく、見返したときに参詣のほっこりした思い出がよみがえってくるよう。神社の由緒やエピソードにちなんだオリジナルの絵馬は、想いを託して奉納を。幸せを願う縁起物は未来を明るく照らしてくれる。



浄土寺

**心に寄り添う阿弥陀三尊と
副住職手づくりのおみくじ。**

石粘土でつくのおみくじのモチーフは、仏様や野菜、動物などバラエティ豊か。1月は干支の龍やおめでたい(猫だるま)も登場。1つ600～700円。鑑さんのお母さまが月ごとに季節の花を描いた〈花朱印〉も評判。1枚500円。



浄土寺の南側にたたずむ歓喜院。季節の御朱印もこちらでいただける。「小さなお寺ですが、境内では季節の花を楽しむことも。浄土寺とともに静かな時間を過ごしてもらえたら」と鑑さん。

浄土寺 塔頭 歓喜院 かんきいん | 小野市

浄土寺の塔頭・歓喜院の授与所には、阿弥陀さまや菩薩さま、来福を願うイヌやネコなどの愛らしいおみくじが並ぶ。人形をつくるのは、副住職の鑑光顯(かがみこうけん)さん。かつて大病を患い、再び仏教の道に戻れたことを感謝し、寺を訪れた人に笑顔届けたいと制作を始めた。「大量生産するものではないので、1つひとつ姿も表情も違うんです。おみくじを見て、会話が弾んだり、ほっと和んでもらえたらうれしいですね」。寺で出あうお気に入りのおみくじが福を運んでくれそう。

▷小野市浄谷町2094 ☎0794-62-4318(歓喜院)
午前9時～正午、午後1時～午後4時(4～9月は午後5時まで) 浄土堂拝観料/500円 12/31・1/1は堂内拝観不可 ③30台

